（様式４）

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和３年４月２０日

グループ名	東京都中学校国語教育研究会 第一研究部会	フリガナ 代表者氏名	ヒガシヤマノブヒコ 東山信彦
学校名 （代表者）	西東京市立田無第四中学校	電話番号	０４２－４６５－６１１３
研究テーマ	合意形成に向け、主体的に考えを広げ深め話し合う指導法の工夫		
研究期間	平成・令和　２５年４月１日　から　令和３年３月３１　日　まで		
研究結果の概要 ※詳細は別紙により報告	1　学習指導要領の全面実施が来年度に迫る中、全教科において主体的・対話的深い学びの実践が各学区で行われている。そのなかで、言語の中核として、すべての言語活動に役立つ国語力の育成は、国語科として大きな課題である。その中でも、各教科で頻繁に行われる話合いについて、思考を深め広げ、合意形成に向かっていくような有効な話合いが行える生徒を育成することが強く求められている。本部会では、長年そのための国語科音声言語授業を構築し、話合いプログラムとして基礎編・発展編を発表してきたが、今期はそれらを統合し、より容易で有効なプログラム統合版を作成した。また、国語科の枠を超えて、総合や特活の中でもスポット的にすべての教員が指導できることも視野に入れ、プログラム開発を行った。 2　指導上の工夫 ⑴ どの生徒もこの学習プランを学ぶことによって、話合いの技術を、一定の基準に揃えることができるようにした。同様に、教授者の経験を問わず、この学習プランを学習させることによって、主体的・対話的で深い学び導入時の話し合う力を育成できるようにした。 ⑵ 話合いの過程を、４段階で捉え、それぞれの段階で必要なスキルを抽出・精選した。さらに、精選したスキルをネーミングし、定着しやすいようにした。（「もやしちゃんとほないこう」：意見の背景にあるものを引き出す「ほ・な・い」と、収束でありながらも、新たな提案を導き出し議論を発展させる視点を加えた、「こう」） ⑶ 生徒に臨場感と意欲をもたせるテーマ設定（フィクションではない）を行った。 ⑷ 単位時間の前半で、抽出した技術について学び、後半の言語活動で学んだ技術を実際に活用させることで、各自が学びを実感し、次時への意欲を育てる授業を構築した。 ⑸ 学習プリントを工夫し、個の思考から集団の話合いを経て自分の考えの再構築へと至る学習の流れを繰り返し、振り返りの視点を明確化（スキルに関することと、考えの広がりに関すること）することにより、身に付けるべき力が確実に身に付いたかを自ら振り返り、自覚できる学習過程を組んだ。 ⑹ 行動変容につながる、最終合意への試行錯誤の過程を、意図的に「もうひと工夫」として組み入れ、より納得感を高めた合意形成へ導いた。		
その他 特記事項	授業に使用したプリントおよび、パワーポイントは、東京都中学校国語教育研究会ＨＰよりダウンロードできます。		

合意形成に向け、主体的に考えを広げ深め話し合う指導法の工夫
～話合い学習プログラム　統合編～

Ⅰ　主題設定の理由

平成２０中学校学習指導要領では、各教科等において言語活動を充実することが示され、多くの学校で、話合い活動を取り入れた授業が活発に行われるようになっていった。しかし、平成２４年には「中学校等の新学習指導要領の全面実施に当たって」初等中等教育局長通知の中で、「言語活動そのものを目的化するなど本来の趣旨にそぐわない運用になることのないよう留意」することが示され、言語活動の充実に対する課題があげられた。この課題に対し、本研究部はその一因を、「話合いという活動は用意されても、課題解決を達成するための話合いを、どのように行えば良いのかを、授業者や学習者が自覚しておらず、適切な話合い活動が行われていないため」ととらえた。

しかし、それはある種仕方のないことだともいえる。例えば、数学科や社会科の教員は、一義的には教科の内容を教える立場であり、話合いの方法を教える立場ではない。話合いに関わる言語能力の育成は、本来、国語科が担うべきであり、国語科の責任において培った能力を基本に、他の教科等の話合いが充実したものとなるようにすべきものである。

そこで、本研究部では、話合い活動の工夫をテーマに、各教科等の話合い活動に資する指導法の研究を平成２５年より開始し、平成２８年に「合意形成に向けて、主体的に考えを広げ話合う指導法の工夫－話合い学習プログラム－（基礎編）」、令和元年に「合意形成に向けて、主体的に考えを広げ話合う指導法の工夫－話合い学習プログラム－（発展編）」として発表する機会を得た。

平成２９中学校学習指導要領でも、言語活動の充実は、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成する活動として受け継がれ、改めて、それら「言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。」（総則）が示された。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が、各教科等の指導でますます求められる中、各校のカリキュラム・マネジメントと連動を図り、各教科等における話合いがさら充実したものとなるよう、国語科としてより充実・深化させた、新たな話合い学習指導法の開発が求められている。

Ⅱ　研究の概要

１　育成する言語能力

○合意形成を目指して話合いの進め方を工夫し、お互いの考えや思いを理解・表現し伝え合う力
○既習の学びを生かして進んで話合いに取り組み、協働し集団の考えを発展させようとする態度

２　研究のねらい

心理的に安全な場における、合意形成に向けた話合いの仕方を学習させる。話合いのそれぞれの段階で必要な技術を抽出・精選し、授業一単位時間の前半部で基礎的な知識・技能を学ばせ、後半部の言語活動で学んだ技術を使って自ら思考・判断・表現させる。適切な振り返りを実施することで、協働して話合いを運営したことや、話合いにより思考を深め納得感の高い合意形成を果たしたこと等、各自が学んだことの有用性を実感させ、主体的な学び手を育てる。

３　研究の内容・方法

本研究部では、話合いによる他者との協働を通して、自己の考えを再構築し、自分の考えを広め深める力を思考力と捉えた。そして、そのような思考を経て、より高い知的創造のある合意形成に至る話合いを、自分達の手で生み出す力を育成すべく、平成２５年度より継続して研究を進めてきた。ねらいを明確にした学習を通して、話し合う力を一つずつ確実に身に付けたり、視点を明確化して行う振り返りの中でメタ認知を強化し、次への学習への課題を共有したりする中で、価値ある話合いへの学習意欲を高め、主体的な学び手を育ててきた。

研究の最終目標を、令和元年度より、平成２９中学校学習指導要領〔思考力・判断力・表現力等〕話し合うことオ「進行の仕方を工夫したりお互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする」能力の育成とした。また、将来的には、さまざまな場で、自分達で自立的に話合いを企画、進行し、納得感の高い合意形成を図ることができる力の育成を目指すことにした。そして、そのために有用な技術として、ファシリテーションスキルに注目した。本来、ファシリテーションスキルは色々の立場の人間が、安心安全な場で、それぞれの持つ力を最大限発揮し、合意形成し、新たな知と行動を生み出していくために生み出された技術である。技術ゆえに、学べば誰でもそれを使い、一定の効果をあげることができると考えら

れる。そこで、ファシリテーションの技術を援用しながら、目標に向けての授業実践を、一つひとつ探っていくこととした。

３０年度は、仮プログラムを作成した。基礎編と同様に、話合いの過程に沿って、さまざまなプラン候補が上がっては消えていった。「問いを立てる」ことのように、実際に研究授業を行う段階までいきながら、不採用となったプランもあった。活動が目的とならぬよう新学習指導要領に学び、付けたい力を明確にし、そのための言語技術を精選した。枠決めのための前提条件、意見対立の解消方法を視点としての「ほないこう」、発散や収束のマッピング・星取表等を用いて、お互いの考えや思いを理解し、協働しながらより納得感の高い合意に練り上げる学習過程を組んだ。ただ、授業を試行する中で、時間不足や、課題設定の可否など、実施上の課題が多く見つかった。

令和元年度は、「誰でも、どんな生徒でも」という、プログラム作成当初のねらいに立ち返り、実施上の課題を一つ一つ検討していった。深い学びに直結する「もうひと工夫」やメタ認知につながる振り返りの充実等、予備授業を行いながら、より効果的なプログラムに仕上げていった。また、「児童生徒の学習評価の在り方について」「学習評価の在り方ハンドブック」等から、評価基準について再考を行った。今までの研究の成果として、**「話合い学習プログラム（発展編）」**を冊子化して発表した。

令和２年度は、「基礎編・発展編」の発表後、実際に本プログラムを取り入れた学校からのフィードバックとして、「特別の教科　道徳」や「総合的な学習の時間」といった、国語科以外の時間での本プログラムを活用することの有用性とともに、実施時間数の確保の難しさといった実態などが浮かび上がった。そこで、全１３時間のプログラムの要諦を抽出し、全７時間による、教科を超えた「誰でも、どんな生徒でも」を目指した「統合編」の作成にとりかかった。

４　ねらいを達成するための指導上の工夫

（１）**どの生徒も**この学習プランを学ぶことによって、話合いの技術を、一定の基準に揃えることができるようにした。同様に、**教授者の経験を問わず**、この学習プランを学習させることによって、主体的・対話的で深い学び導入時の話し合う力を育成できるようにした。

（２）話合いの過程を、「考えをもつ」「考えを出し合い、整理する（発散）」「考えを比較する（収束）」「考えを深める」という４段階で捉え、それぞれの段階で必要なスキルを抽出・精選した。さらに、精選したスキルをネーミングし、定着しやすいようにした上で、それぞれの段階で活用できるようにした。

ア　「**もやしちゃんとあおいふく**」
：話合いの前提としての「**も**（目的）**や**（役割）**し**（進行）**ちゃん**（ちゃんとルールを守ろう）」と、
共感的な聴き方としての「**あ**（相槌）**お**（驚き）**い**（言い換え）**ふく**（復唱）」。

イ　「**もやしちゃんとほないこう**」
：論理的な思考につながる、意見の背景にあるものを引き出す質問としての
「**ほ**（ほんとう？）・**な**（なぜ？）・**い**（いつもそう言える？）」
と、そうして見いだされた双方の一致点を踏まえて、新たな提案を導き出し議論を発展させる視点を加えた質問としての
「**こう**」（こうすれば？）。

もやしちゃんと「あおいふく」

もやしちゃんと「ほないこう」

（３）生徒に臨場感と**意欲をもたせるテーマ**（フィクションではないもの）を設定した。

（４）単位時間の前半で、抽出した技術について学び、後半の言語活動で学んだ術を実際に活用させることで、各自が**学びを実感**し、次時への意欲を育てる授業を構築した。

（５）学習プリントを工夫し、個の思考から集団の話合いを経て自分の考えの再構築へと至る学習の流れを繰り返し、振り返りの視点を明確化（スキルに関することと、考えの広がり深まりに関すること）することにより、身に付けるべき力が確実に身に付いたかを**自ら振り返り、自覚できる**学習過程を組んだ。

（６）行動変容の意欲につながる、最終合意への試行錯誤の過程を、意図的に「**もうひと工夫**」として組み入れ、より納得感を高めた合意形成へ導いた。

（７）ICT **教具を活用**し、各時間に取り組ませる活動をパワーポイントで事前に例示することで、生徒に見通しと、より多くの活動する時間をもたせられるようにした。

５　単元の指導計画と評価計画（全７時間扱い）

	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準と評価方法
1	①これまでの生活を振り返り、良くなかった話合いについて考える。 ②良い例を良くない例から、安心感のある話合いのために必要なことを指摘する。 ③「②」について、共有・整理することを通して理解する。(＝“もやしちゃん”) ④この単元で学ぶことについて理解する。	**【主】→**より良い話合いのために意識すべきことを自分なりに捉え、学習の見通しをもっている。[観察、ﾜｰｸｼｰﾄ]
2	**習得スキル：話の受け止め方・引き出し方** ① 良い例を良くない例から、安心感のある話合いのために必要なことを指摘する。 ②「①」について、共有・整理することを通して理解する。(＝“あおいふく”“深める質問”“広げる質問”) ③「②」を活用して、ペアでインタビューしあい、気付いたことを振り返る。	**【思・判・表】A エ→**質問したり発言を促したりしながら相手の考えをとらえ、自分の考えを広げている。[観察　ﾜｰｸｼｰﾄ]
3	**習得スキル：意見対立の解消の仕方** ① 姉弟の会話における良い例を良くない例から、意見対立の解消を図る話合いのために必要なことを指摘する。 ②「①」について、共有・整理することを通して理解する（＝“ほないこう”) ③「②」を活用して、ペアで話し合い、気付いたことを振り返る。 練習テーマ：学年レクの内容を考えよう	**【知・技】(2) ア→**「本当？」「なぜ？」「いつも？」などの質問に対して、根拠や理由となる内容を答えている。［観察］ **【思・判・表】A オ→**「本当？」「なぜ？」「いつも？」「こうすれば？」などと根拠や理由の確かさを確かめながら、相手との考えの一致点を見出している。[観察　ﾜｰｸｼｰﾄ]
4 5	**習得スキル：意見の出し方・整理の仕方** ①「小学生との交流会」の例を基に、「あおいふく」を踏まえた意見の出し方と整理の仕方について理解する。(＝“ﾌﾞﾚｰﾝｽﾄｰﾐﾝｸﾞ”“ｸﾞﾙｰﾋﾟﾝｸﾞ”) ②「①」を活用して、ペアで練習する。 練習テーマ：学年レクの内容を考えよう ③「①」を活用して、グループで話し合い、気付いたことを振り返る。 本テーマ：この街を笑顔にする活動は？	**【知・技】(2) イ→**付せんに示された意見の根拠や類似点を捉えている。[観察　ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ] **【思・判・表】A エ→**質問したり発言を促したりしながら相手の考えをとらえ、自分の考えを広げている。[観察　ﾜｰｸｼｰﾄ]
6	**習得スキル：意見の比べ方** ①「小学生との交流会」の例を基に、「ほないこう」を踏まえた意見の比べ方について理解する。(＝“ﾍﾟｲｵﾌﾏﾄﾘｸｽﾞ”) ②「①」を活用して、ペアで練習する。 練習テーマ：学年レクの内容を考えよう ③「①」を活用して、前時と同じグループで話し合い、気付いたことを振り返る。 本テーマ：この街を笑顔にする活動は？	**【知・技】(2) イ→**ペイオフマトリクスを活用して、複数の意見を一定の評価項目に基づいて比較している。[観察　ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ] **【思・判・表】A オ→**理由を示しながら意見を比較することを通して、互いの発言を生かし、自分の考えをより確かなものにしている。[観察　ﾜｰｸｼｰﾄ]
7	**習得スキル：意見の決め方** ①「小学生との交流会」の例を基に、「あおいふく」「ほないこう」を踏まえた意見の決め方について理解する。(＝“もうひと工夫”) ②「①」を活用して、ペアで練習する。 練習テーマ：学年レクの内容を考えよう ③「①」を活用して、前時と同じグループで話し合い、気付いたことを振り返る。 本テーマ：この街を笑顔にする活動は？ ④各グループで結論をまとめ、それらを共有することを通して、この単元で学んだことを振り返る。	**【思・判・表】A オ→**最終案に対して多面的に課題を見出し、より効果的な取り組み方について理解を広げている。[観察　ﾜｰｸｼｰﾄ] **【主】→**学んだことの意義を振り返り、それらを様々な場面で生かそうとしている。[ﾜｰｸｼｰﾄ]

Ⅲ　研究の成果と今後の課題

（１）授業で扱う内容を改めて精査したことで、他教科での話し合いに資する必要最小限のスキルを短時間で、効率的に指導することができた。【成果】

（２）ICT 教具（パワーポイント）を活用することで、生徒に見通しと、より多くの活動時間をもたせられ、かつ、指導者が異なっても同様の説明が行えるようになった。【成果】

（３）共感的な聴き方（あおいふく）と、論理的な思考につながる質問（ほないこう）を、単元を通して、それぞれ意図的に活用させることができた。【成果】

（４）授業で扱う内容を改めて精査したことで、テーマを自分たちで設けたり、解釈したりすることや、発散・収束において自らスキルを選ぶことについては、別に指導する必要性が生まれた。【課題】

（５）生徒が学ぶペースを踏まえると３時間で二つのスキルを指導する指導展開となり、ワークシートの構成を１時間ごとの内容にできなかった。【課題】

（６）第７時において、単元のまとめとして、他のグループと結果を共有したり、単元全体の振り返りをしたりする時間を、十分に確保できなかった。【課題】

※話合い学習プログラム（統合編）は、指導案・ワークシート・パワーポイントデータを、東京都中学校国語教育研究会ＨＰよりダウンロードできます。